



***U*PORTS 4**





USB2.0 High-Speed

4 入力 / 4 出力、+48V ファンタム電源付きレコーディング
USB インターフェース



ユーザーズマニュアル

**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ICON製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

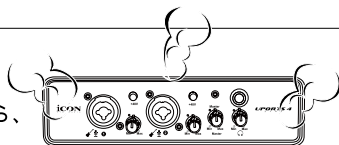
故障したら使わない

本体やACパワーアダプター、充電器などの動作がおかしくなったり、破損しているのにお気付きの場合はすぐにお買い上げ店またはアイコンサービス窓口へ修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

- ① アイコンサービスセンター
- ② USBケーブルを抜く
- ③ お買い上げ店またはアイコンサービス窓口へ修理を依頼する

変な音・
においがしたら、
煙が出たら



警告表示の意

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じることがあります

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の器具に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す
記号



感電
⚡

指み
👉



行為を禁止
する記号



禁止
🚫

分解
禁止



行為を指示
する記号

プラグを
コンセントから抜く



強制

**警告**

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの となります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。絶対に自分で分解しないでください。内部の点検や修理はお買い上げ店またはアイコンサービス窓口にご依頼ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。この機種は防水構造にはなっていないので、水中や雨天での使用はできません。万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプターや充電器をコンセントから抜いてください。電池を使用している場合は、すぐに電池を取り出してください。そして、お買い上げ店またはアイコンサービス窓口にご相談ください。

内容

はじめに	4
付属品をご確認ください	4
お客様のアカウントで ICON Pro Audio 製品をご登録ください	5
機能	6
フロントパネル	8
リヤパネル	9
トップパネル	10
Mac ドライバのインストール	11
LoopBack 機能を備えた ProDriver 4 をインストールします	11
ミキサコントロールパネル (Mac)	15
Windows ドライバのインストール	17
ProDriver4(Windows)	20
ミキサコントロールパネル (Windows)	21
設定 (サンプルレートと遅延の設定)	24
ProDriver ホスティングラック (Mac/Windows)	28
ハードウェアの接続	36
各種マイクロホン接続図	37
仕様	38
修理について	39

はじめに

ICON UPorts4 Dyna シリーズ USB オーディオレコーディングインターフェースをご購入いただき、ありがとうございます。このページでは、「UPorts4 Dyna」シリーズ USB オーディオレコーディングインターフェースの機能の詳細、フロントパネルとリアパネルのガイドツアー、セットアップと使用方法のステップバイステップの説明、そして仕様の一覧を紹介しています。マニュアルを読むと、オレンジ色のボックスが目に入ります。これらは、作業を開始するのに役立つアクションを実行するためのものです。

他の電子製品と同様、本製品につきましてもご購入いただきました際の梱包材一式を保管していただきますようお願い申し上げます。万が一、修理のために製品が返却された場合には、元の梱包材（または適切な同等品）が必要です。適切なケアと適切な空気循環により、LiveConsole デジタルオーディオインターフェースは今後何年にもわたって完璧に動作します。

この製品は何年にもわたって優れたサービスを提供しますが、万が一、製品が最高水準の性能を発揮できなかった場合には、その問題に対処するためにあらゆる努力を行います。

付属品をご確認ください

- UPorts4 Dyna USB レコーディングインターフェース
- 本ユーザマニュアル
- USB 2.0 ケーブル (タイプ C)
- 3.5mm TRS オーディオケーブル

お客様のアカウントで ICON Pro Audio 製品をご登録ください

1. お使いのデバイスのシリアル番号を確認してください

<http://iconproaudio.com/registration> に進むか、下の QR コードをスキャンします。



画面に、お使いのデバイスのシリアル番号など、請求された情報を入力します。「Submit」をクリックします。

形式番号やシリアル番号などのデバイス情報を表示したポップアップウィンドウが現れます。「Register this device to my account」をクリックします。別のメッセージが表示された場合はアフターセールスサービスチームまでご連絡ください。

2. 既存ユーザーの方は、ご自分の個人アカウントページにログインします。未登録の方は新規ユーザーとして登録してください。

既存ユーザーの場合：ユーザー名とパスワードを記入して、個人ユーザーページにログインしてください。

新規ユーザーの場合：「Sign Up」をクリックして、情報をすべて記入してください。

3. 役に立つ資料をダウンロードする

このページのアカウントに、登録済みデバイスがすべて表示されます。製品ごとにドライバ、ファームウェア、各言語版のユーザーマニュアル、バンドルされたソフトウェアなどが表示されるので、これらをダウンロードすることができます。デバイスのインストールを開始する前に、ドライバなどの必要なファイルをダウンロードしておいてください。

機能

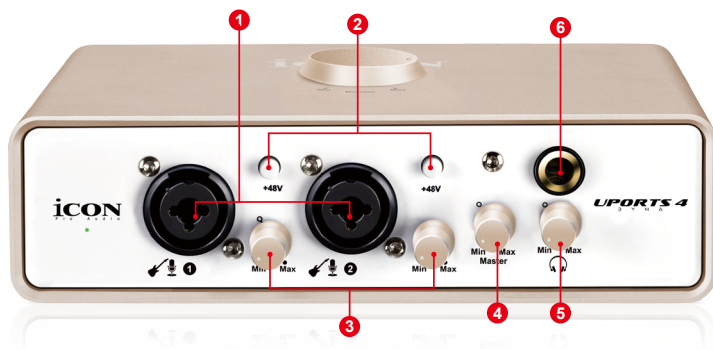


ICON Pro Audio UPorts4 Dyna USB 録音インターフェイスは、オーディオ入出力モジュールや、スマートモバイルデバイス向けのライブストリーミングアプリケーション用アナログ・デジタル接続機能を提供します。主な機能：

- 24 ビット 192KHz 2 mic-In / 2 inst-In、2-Out USB レコーディングインターフェイス。
- 高ダイナミックレンジのプロフェッショナル向けハイエンド・ハイグレード DA/AD DAC：ダイナミックレンジ：127dB
- スマートデバイスと同時に動作する Mac/PC 接続機能をサポート
- ProDriver4 仮想プラグインラックを介してオーディオ信号を処理してライブセッションが可能
- 4x4 アナログ I/O 全二重同時録音および再生。
- iOS および Android Digital I/O ジャック（タイプ C）と互換性があり、スマートフォンを直接接続できるアナログ I/O ジャック（3.5mm ステレオ TRRS）を搭載、タブレットまたはその他のデバイス
- 独立ゲインコントロールとファンタム電源スイッチ付きデュアルマイク / 楽器用プリアンプ
- 1/4 インチ TRS ジャックの 2 個のアナログ出力、または 3.5mm フォーン・コネクタのステレオ出力。
- トップパネルのボリュームコントロールノブを監視します
- トップパネルのダイレクトモニタリングコントロールつまみ
- ソース割当可能なヘッドホン出力 1 個。専用ボリュームコントロール付き。
- ProDriver4 ソフトウェアコントロールパネルによるフレキシブルチャンネルルーティング。
- ICON Pro Audio が開発した超低レイテンシーの ProDriver4™ ドライバを搭載
- ICON Pro Audio の画期的で使いやすいプラグインホスティングラックソフトウェアを搭載した ProDriver4™ (Windows と MAC)
- ARM-M7/500MHz の処理能力と技術により、超高速で安定した信号処理を実現
- 高速 USB2.0 装着。USB バス電源。
- 2 つのモバイルデバイスと直接接続するための 2xTypeC「OTG」ポート
- DirectSound、WDM、ASIO2.0 をサポート。

- LoopBack 機能は、Mac/Windows 両対応の ProDriver 4™ を搭載。
- Mac OS (Intel-Mac)、iOS 9 以降、Windows 7、Windows 8、Windows 10 (32 ビット /64 ビット) 対応。
- フルデュプレックス、同時録音再生。
- iOS で使用する場合の外部電源用 +5VDC 電源コネクタが装着されています。
- 堅牢なアルミニウム筐体。
- Bitwig 8Track を搭載
- Dotec オーディオプラグインを搭載

フロントパネル



1. 「Mic/Inst」入力 1/2

楽器およびマイクレベル不平衡入力。このハイブリッドコネクタには、標準 3 ピン XLR プラグまたは 1/4 インチ TS コネクタが接続できます。

2. 48V ファンタム電源スイッチ

このスイッチを押すと、それに関連した XLR 入力に 48V ファンタム電源が供給されます。このファンタム電源はほとんどのコンデンサマイクに使用できます。

3. 入力ゲインレベルコントロール 1/2

関連アナログマイク / 楽器 / ライン入力の入力レベルコントロール用ポテンシオメータ。

4. マスターレベルコントロール

アナログ出力のマスター出力レベルを調整するポテンシオメータ。

5. ヘッドホンレベルコントロール

ヘッドホン出力の出力レベルを調整するポテンシオメータ。

6. ヘッドホン出力

標準 1/4 インチ TRS ヘッドホンコネクタ-接続用出力ジャック。

リヤパネル



1. USB 2.0 コネクタ (タイプ C)

付属のケーブルで、本器とご使用の Mac または PC または iOS デバイスカメラキットの USB コネクタとを接続します。ご使用の Mac または PC が USB2.0 接続可能でなければ、UPorts4 Dyna をフルスピードで動作させることはできません。

2. ライン出力 1/2

+6dBu ラインレベルの不平衡アナログ出力用標準 1/4 インチ TS コネクタ。

3. スマートデバイス I/O (デジタル - タイプ C およびアナログ - 3.5mm TRRS)

これらのポートを使用すると、スマートデバイスや Mac/PC を同時に接続することができるため、ライブストリーミング用途でスマートデバイスにオーディオ信号を送信する前に、Mac/PC で信号を処理することができます。

デジタル - スマートデバイスのデジタルジャックに直接接続できるタイプ C ジャック (OTG アダプターが必要)

アナログ - スマートデバイスのオーディオ I/O に直接接続できる TRRS ステレオジャック

4. MIDI I/O コネクタ

MIDI 入出力用標準 5 ピン DIN コネクタ。

5. 電源コネクタ (USB タイプ C)

UPorts4 Dyna は USB バスで電源が供給されます。お使いのコンピュータが十分な電源を供給できない場合、このジャックに ICON +5VDC 電源アダプタを接続するか、適切な USB ケーブルの付いた標準携帯電話充電器 / 電源アダプタをお使いください。

(**注意** : 電源アダプタはお近くの ICON 販売店で求められます。)

(**注意** : Mac や PC を使用せずに UPorts4 Dyna をスタンドアロンユニットとして使用する場合には、外部電源アダプターが必要です)

トップパネル



1. 「ダイレクトモニター」 つまみ

ハードウェアダイレクトモニタリング (時計回りに回して「ダイレクト出力」にする) では、入力トラックや既存のトラックの聴取の際にどんなに優れた内部回路でも本質的に発生しうる遅延が解消されます。もしくは、極めて遅延の小さい ASIO モニタリングを使用して、録音中に、エフェクトと一緒に入力信号を聴くことができます (反時計回りに回して「コンピュータ」にする)。

Mac ドライバのインストール

UPorts4 Dyna はクラスコンプライアンスデバイスです。従って、Mac にドライバをインストールする必要がありません。さらに、カメラキットに接続すると iOS デバイスがフルサポートされます。

LoopBack 機能を備えた ProDriver 4 をインストールします

1. 「パーソナルユーザーポータル」ページのオーディオインターフェースから ProDriver 4 (Mac) をダウンロードします。
(パーソナルユーザーポータルの作成については、P.5 「ICON ProAudio 製品をパーソナルアカウントに登録する」を参照してください。)
2. パーソナルユーザーポータルからダウンロードしたファイル「ProDriver-OSX-xxx.dmg」をダブルクリックします

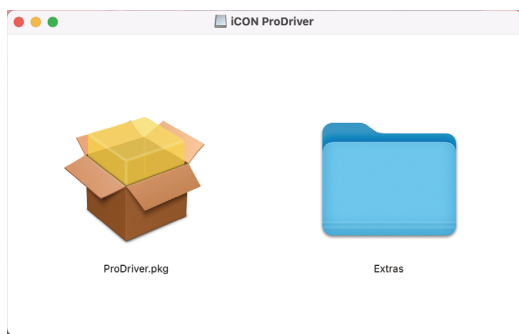


図 1

3. 「ProDriver.pkg」をダブルクリックして、ProDriver のインストールを開始します

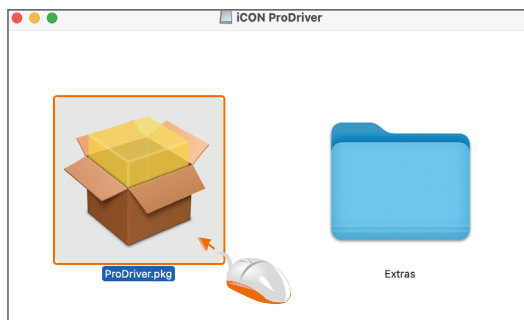


図 2

4. 「Continue」をクリックします

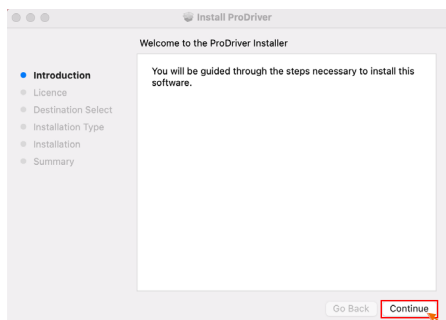


図 3

5. 「Continue」をクリックします

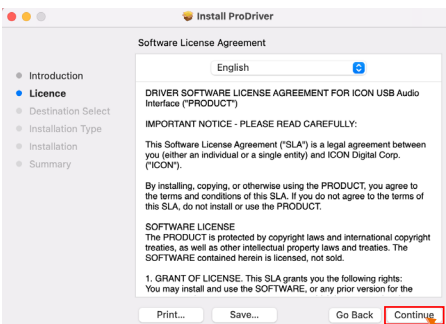


図 4

6. 「Read License」をクリックしてライセンス条項を読むか、「同意する」をクリックしてインストールを開始します

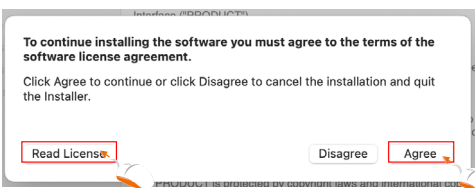


図 5

7. ProDriver をインストールするディスクを選択し、[Continue] をクリックします

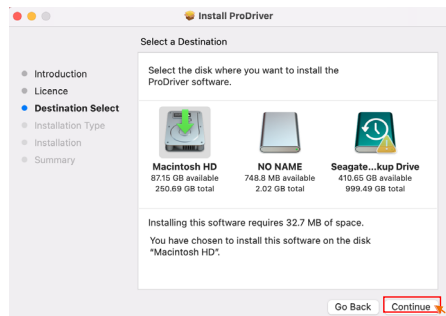


図 6

8. Click "Install"

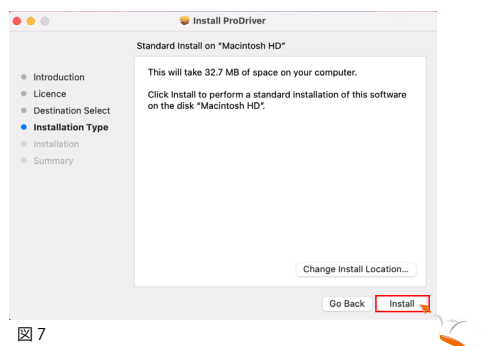


図 7

9. パスワードを入力するか、指紋をタップしてインストールを開始します。

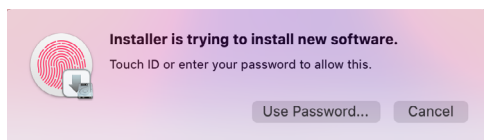


図 8

10. インストールが開始され、完了したら [Close] をクリックします。

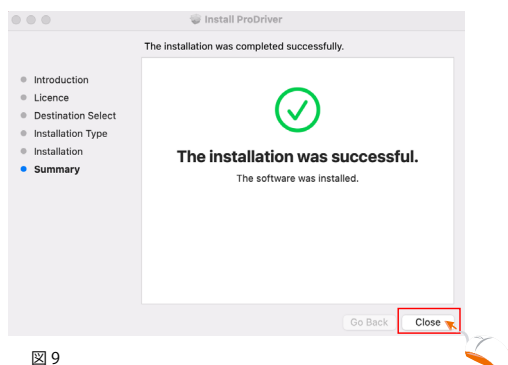


図 9

11. この状態のオーディオインターフェースを Mac に接続し、図のように ICON ロゴをクリックしてください。

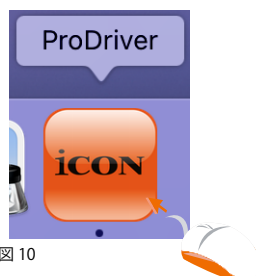


図 10

12. お使いのオーディオインターフェースのモデルをリストから選択し、「Select」をクリックします

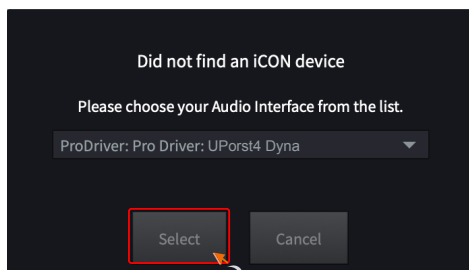


図 11

13. [OK] をクリックすると、ProDriver がマイクにアクセスできるようになります。

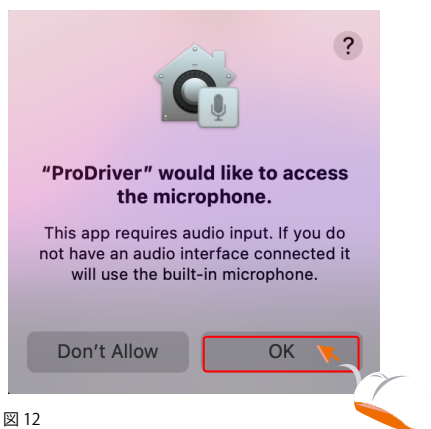


図 12

14. デスクトップに ProDriver 起動ロゴが表示されますので、これをクリックすると ProDriver コントロールパネルが起動します。



図 13

15. オーディオ MIDI セットアップ
「オーディオ MIDI セットアップ」ウィンドウを開き、下の図 14 のように、UPorts4 Dyna デバイスのセットアップが正しく行なわれたかを確認してください。

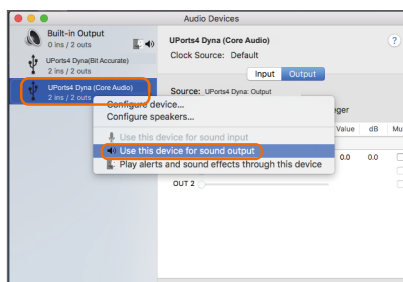


図 14

ミキサコントロールパネル (Mac)

本ミキサはマトリックスミキサと同様に作動します。対応する入力または出力チャンネルレベルを起動して調整してください。これらは大変便利で、入出力が非常に柔軟に行なえます。任意の入力を任意の出力に対応させることができます。

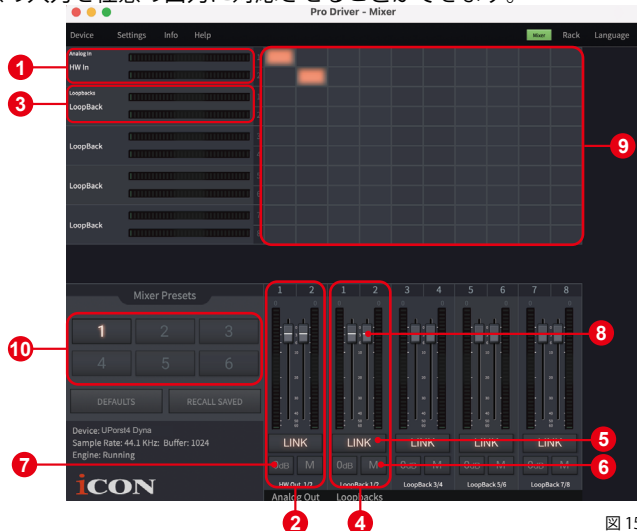


図 15

- 1. HW Input 1/2 レベルメーターリング**
ハードウェア入力 1/2 入力レベルを表示します (HW In 1/2)。
- 2. HW Output 1/2 出力レベルを表示します**
ハードウェア出力 1/2 出力レベルを表示します (HW Out 1/2)。
- 3. LoopBack イン 1 ～ 8 レベルメータリング**
LoopBack1/2、3/4、5/6、7/8 の入力レベルを表示します。
- 4. LoopBack アウト 1 ～ 8 レベルメータリング**
LoopBack1/2、3/4、5/6、7/8 の出力レベルを表示します。
- 5. リンクスイッチ**
両方のチャンネルを同時に調整するスイッチ。
- 6. ミュートスイッチ**
対応するチャンネルをミュートするスイッチ。
- 7. 「0dB」スイッチ**
対応するチャンネルを瞬時に「0dB」レベルに調整するスイッチ。
- 8. ゲインコントロールフェーダー**
これをスライドして、対応するチャンネルのゲインレベルを調整します。
- 9. 入力 & 出力マトリックススイッチ**
ハードウェア入力チャンネルとそれに対応するハードウェア出力チャンネルとのルートをオンオフするスイッチ。このマトリックスは大変便利で、入出力が非常に柔軟に行なえます。任意の入力を任意の出力に対応させることができます。

10. Mixer Presets

ミキサーの設定を保存するための6つのボタン(メモリスロット)があります。ボタンをクリックして、リアルタイムで保存されるミキサー設定を変更します。プリセットを呼び出すには、ボタンをクリックします。

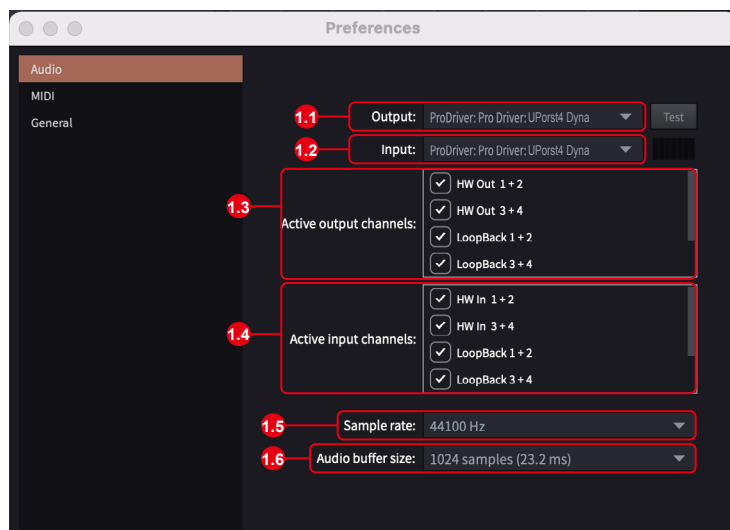


図 16

11. デバイスの環境設定

上部メニューバーにある [デバイス] をクリックして、[環境設定] ウィンドウを起動します。

11.1 出力

出力デバイスとしてオーディオインターフェースを選択します

11.2 入力

入力デバイスとしてオーディオインターフェースを選択します

11.3 有効な出力チャンネル

オーディオインターフェースで利用可能で有効なすべての出力チャンネルを表示

11.4 有効な入力チャンネル

オーディオインターフェースで利用可能で有効なすべての入力チャンネルを表示

11.5 サンプルレート

リストから目的のサンプルレートを選択します

11.6 オーディオバッファサイズ

リストから目的のオーディオバッファサイズを選択します

(**注意** : クリック音が聞こえたら、さらに大きなバッファサイズに設定を変更してください。一番大きなバッファサイズを選択した場合でもクリック音が聞こえることがあります。これは、ご使用のコンピュータの性能が不十分のため、タスクを処理しきれないことを意味します。(これは、UPorts4 Dyna シリーズ デジタルオーディオインターフェースから発生する音ではありません。))

Windows ドライバのインストール

次の手順に従って、UPorts4 Dyna シリーズ USB レコーディングインターフェースとそのドライバをインストールしてください。

1. コンピュータの電源を入れる

注意: ここではまだコンピュータに UPorts4 Dyna シリーズデジタルオーディオインターフェースを接続しないでください。

2. www.iconproaudio.com の個人ユーザーページから、Windows ドライバをダウンロードします（パーソナルユーザーポータルでの作成については、P.5「ICON ProAudio 製品をパーソナルアカウントに登録する」を参照してください。）

C ドライバファイルをダウンロードしたら、そのファイルをクリックしてインストールプロセスを開始します。

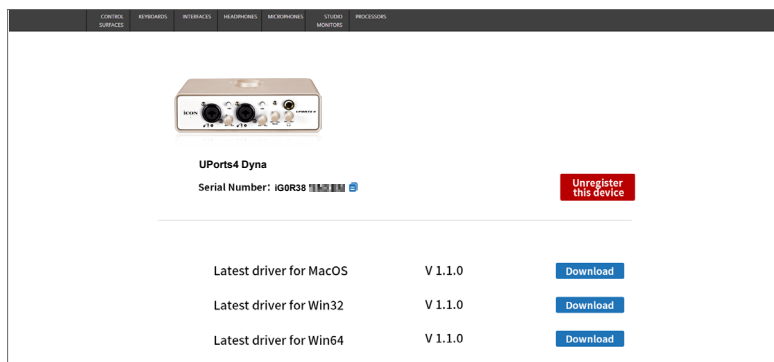


図 17

3. インストールウィザードが表示される

図 18 のような「ようこそ」画面が表示されたら「次へ」を選択してください。

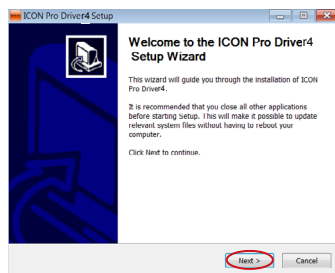


図 18

4. ライセンス契約書

「I Agree」をクリックして続けます。

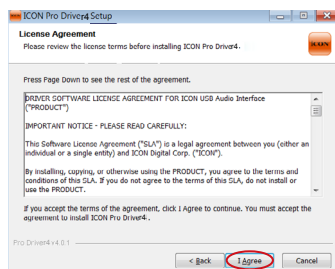


図 19

5. インストールしたいコンポーネントを選択する

インストールしたいコンポーネントにチェックマークを入れてください。全部のコンポーネントを選択するよう強くお勧めします。

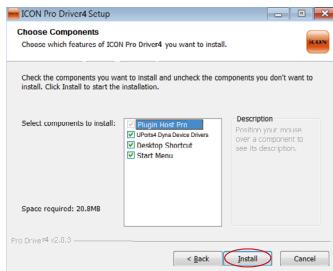


図 20

6. ファイルのインストールの準備

インストールプロセスが開始されます。ご使用のコンピュータの性能によってこのプロセスに要する時間が異なります。プロセスが終了するまでお待ちください。

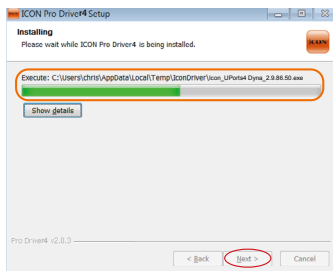


図 21

7. 「Install」をクリックして継続します。

注意: ドライバが3回別々にインストールされるので、同じメッセージが3回表示されることがあります。

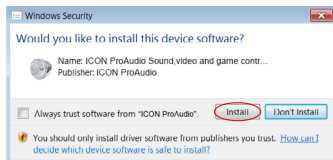


図 22

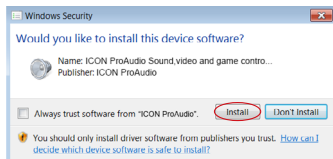


図 23

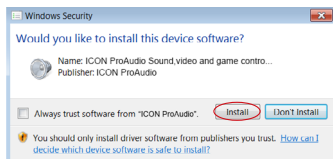


図 24

8. セットアップの完了

図 25 のようなウィンドウが表示されます。「フィニッシュ」を選択してください。

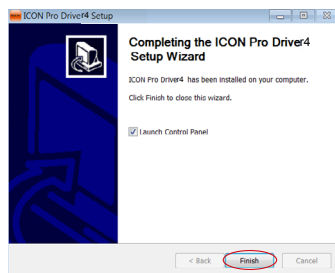


図 25

9. ソフトウェアコントロールパネルを起動する

システムトレイの UPorts4 Dyna ロゴをクリックすると、ソフトウェアコントロールパネルが起動します (20 ページ)。

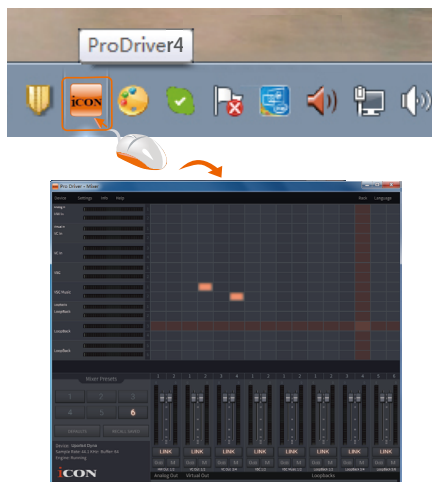


図 26

10. UPorts4 Dyna シリーズデジタルオーディオインターフェイスを接続する

ではここで、コンピュータの USB ポートに UPorts4 Dyna シリーズデジタルオーディオインターフェイスを接続して。

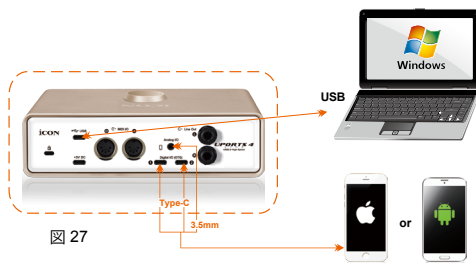


図 27

ProDriver4(Windows)

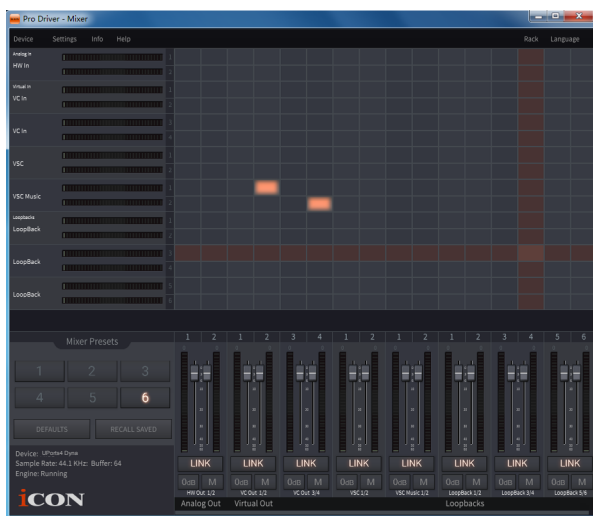


図 28



図 29

ICON Pro Audio がお届けする、ステージ、スタジオ、ストリーミング用最新鋭オーディオインノベーション、ProDriver をご紹介しましょう。ProDrive オーディオシステムは、必要なときに直ちに使える、高信頼性オーディオツールを提供します。本システムの心臓部は、最先端テクノロジーを使用したゼロレイテンシーモニタリング用ドライバです。ユーザーインターフェイスと仮想信号ルーターにより、あらゆるソースからオーディオをキャプチャしてコンピュータに再転送することができます。ProDriver Plugin Host を使用すれば、好きな VST、オーディオユニット、DirectX プラグインに接続できます。ProDriver は、スタンドアロンモードで動作させることも、お好みの DAW で動作させることもできます。好きなプラグインチェーンをプリセットとして保存し、セッションやライブステージでリアルタイムに呼び出すことができます。

ミキサコントロールパネル (Windows)

ICON ProAudio オーディオインターフェイスドライバには、「WDM」(Windows Driver Model) と、「ASIO」(Audio Stream Input and Output) の2種類のオーディオドライバが搭載されています。WDM は、メディアプレイヤーなどの汎用ソフトウェアで広く使用され、ASIO は、主に、LogicPro などの録音ソフトウェアで使用されます。ASIO には、WDM よりもレイテンシーが小さいというメリットがあります。これは、大量のプラグインを使用した録音の際に非常に重要になってきます。実際、HW (ハードウェア) チャンネルのみを使用する大部分の汎用ソフトウェアは、ASIO ドライバをサポートせず、WDM のみを使用しています。以下に、各チャンネルタイプで使用される用語の意味を説明しました。

1. HW IN (Hardware Channel IN)

これは、マイクや楽器入力チャンネルなどのハードウェア入力チャンネルを意味します。

2. HW Out (Hardware Channel OUT)

これは、ヘッドフォンやラインアウト出力チャンネルなどのハードウェア出力チャンネルを意味します。

3. VC Out (Virtual Channel OUT)

これは ASIO ドライバのみに存在する、ASIO VC IN へ信号を出力する仮想チャンネルです。

4. VC In (Virtual Channel IN)

これは ASIO ドライバのみに存在する、ASIO VC Out からの信号を入力する仮想チャンネルです。

5. LoopBack (LoopBack Channel)

ASIO 内部ループバックチャンネル (たとえば、ASIO VC Out 信号を ASIO VC IN に送るなど)

ミキサコントロールパネルには、3種類の操作可能な主要 ASIO チャンネルがあります。

1. UPorts4 Dyna ハードウェアチャンネル (HW In 1/2 と HW Out 1/2)

これは UPorts4 Dyna のハードウェア入出力チャンネルです。

2. UPorts4 Dyna 仮想チャンネル (VC In 1/2、3/4、5/6)、(VC Out 1/2、3/4、5/6)

これは WDM に関連した仮想入出力チャンネルです。

例: WDM Out 1/2 を VC In1/2 にリンクさせる

VC Out1/2 を WDM In1/2 にリンクさせる

3. UPorts4 Dyna ループバックチャンネル (LB 1/2、3/4、5/6)

これは ASIO ループバックチャンネルです。

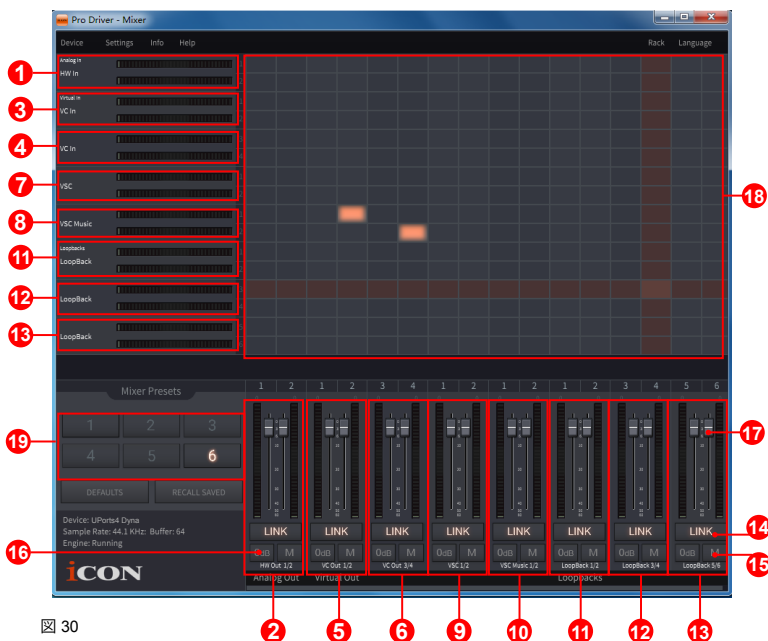


図 30

異なるクロスポイント起動すると、希望のチャンネルに、それに対応する信号を送ることができます。

1. HW Input 1/2 レベルメーターリング

ハードウェア入力 1/2 入力レベルを表示します (HW In 1/2)。

2. HW Output 1/2 出力レベルを表示します

ハードウェア出力 1/2 出力レベルを表示します (HW Out 1/2)。

3. VC In 1/2 (仮想) 入力レベルメーターリング

WDM 1/2 入力レベルを表示します (VC In 1/2)。

4. VC In 3/4 (仮想) 入力レベルメーターリング

WDM 3/4 入力レベルを表示します (VC In 3/4)。

5. VC Out 1/2 (仮想) 出力レベルメーターリング

ASIO 1/2 VC 出力レベルを表示します (VC Out 1/2)。

6. VC Out 3/4 (仮想) 出力レベルメーターリング

ASIO 3/4 VC 出力レベルを表示します (VC Out 3/4)。

7. VSC In 1/2 (仮想) 入力レベルメーターリング

WDM 1/2 入力レベルを表示します (VSC In 1/2)。

8. VSC music In 1/2 (仮想) 入力レベルメーターリング

WDM 1/2 入力レベルを表示します (VSC music In 1/2)。

9. VSC Out 1/2 (仮想) 出力レベルメーターリング

ASIO 1/2 VSC 出力レベルを表示します (VSC Out 1/2)。

10. VSC Music Out 1/2 (仮想) 出力レベルメーターリング

ASIO 1/2 VSC Music 出力レベルを表示します (VSC Music Out 1/2)。

11. ループバック 1/2

ASIO ループバック 1/2 チャンネルのレベルメーターリングを表示します。

12. ループバック 1/2

ASIO ループバック 1/2 チャンネルのレベルメーターリングを表示します。

13. ループバック 1/2

ASIO ループバック 1/2 チャンネルのレベルメーターリングを表示します。

14. リンクスイッチ

両方のチャンネルを同時に調整するスイッチ。

15. ミュートスイッチ

対応するチャンネルをミュートするスイッチ。

16. 「0dB」 スイッチ

対応するチャンネルを瞬時に「0dB」レベルに調整するスイッチ。

17. ゲインコントロールフェーダー

これをスライドして、対応するチャンネルのゲインレベルを調整します。

18. 入力 & 出力マトリックススイッチ

ハードウェア入力チャンネルとそれに対応するハードウェア出力チャンネルとのルートをオンオフするスイッチ。このマトリックスは大変便利で、入出力が非常に柔軟に行なえます。任意の入力を任意の出力に対応させることができます。

19. Mixer Presets

ルーティングチャンネル設定を保存したり読み込むために、6 個のミキサープリセットボタンスロットが使用できます。

設定 (サンプルレートと遅延の設定)

「Setting」 ボタンをクリックすると設定ウィンドウが起動します。

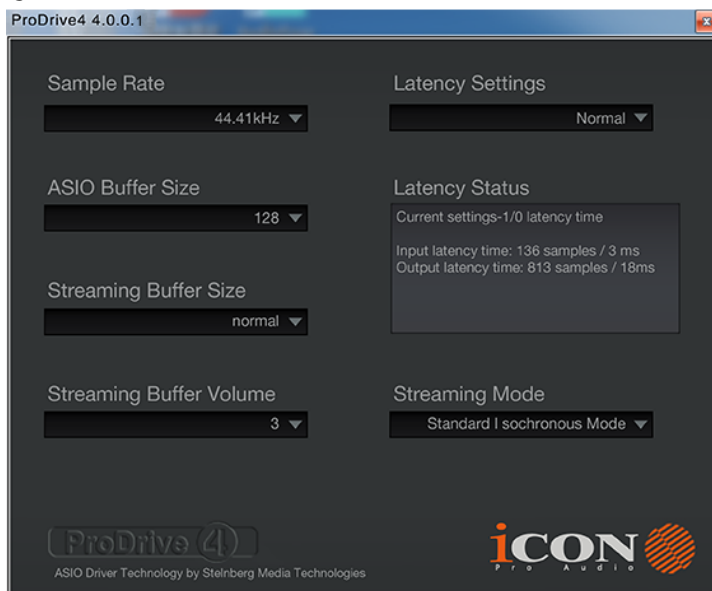


図 31

サンプリングレートの設定

図 32 のプルダウンウィンドウで、44.1KHz ~ 192KHz のいずれかが希望のサンプリングレートを選択してください。

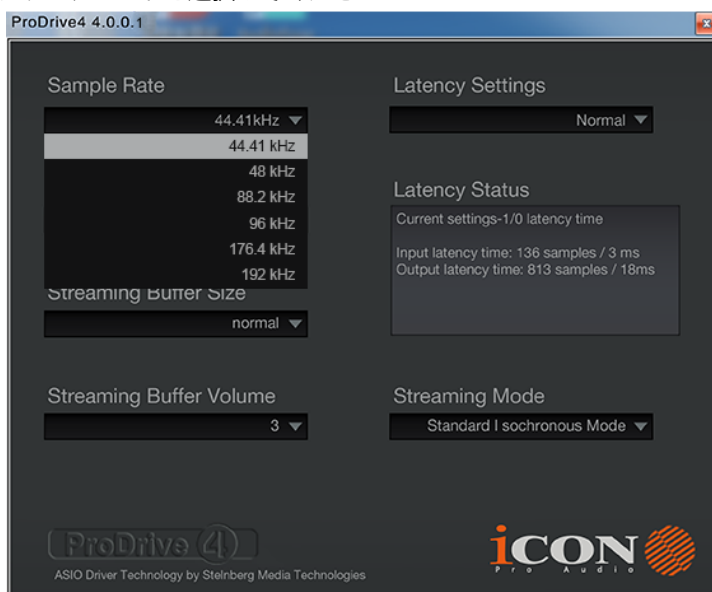


図 32

遅延設定

6 個の設定から遅延が選択できます。ご自分で遅延の値をカスタマイズしたい場合は custom を選択してください。

- 安全 (最大の遅延)
- きわめて大
- 通常
- 小
- きわめて小
- 最小 (最小の遅延)
- カスタム

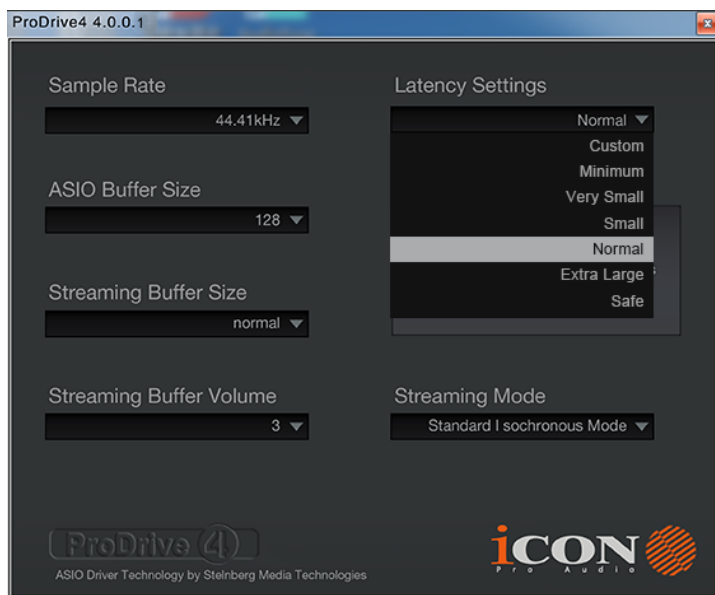


図 33

ご自分で遅延設定をカスタマイズできるように、3種類の設定があります：選択できる値：

1. ASIO バッファサイズ

値は、32/64/128/256/512/1024/2048/4096 に調整できます。

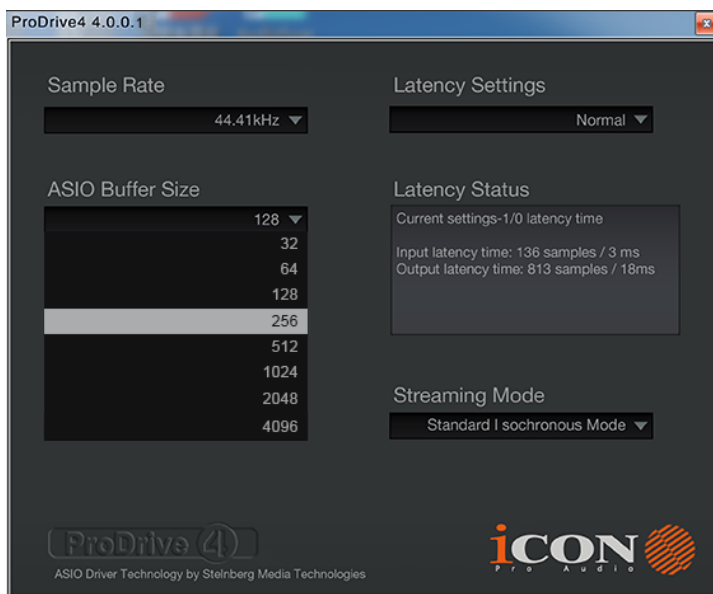


図 34

2. ストリーミングバッファサイズ

調整可能な設定：最低 / 低 / 通常 / 高 / 最高

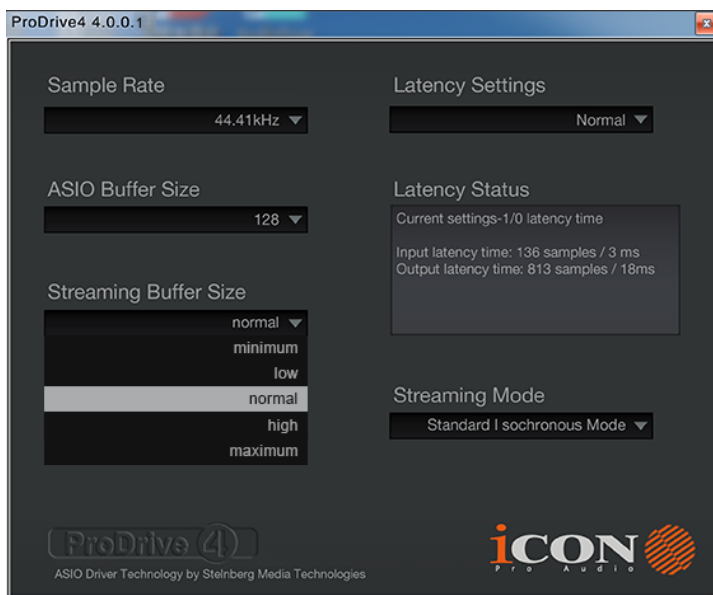


図 35

3. ストリーミングバッファボリューム

調整可能な値：2/3/4

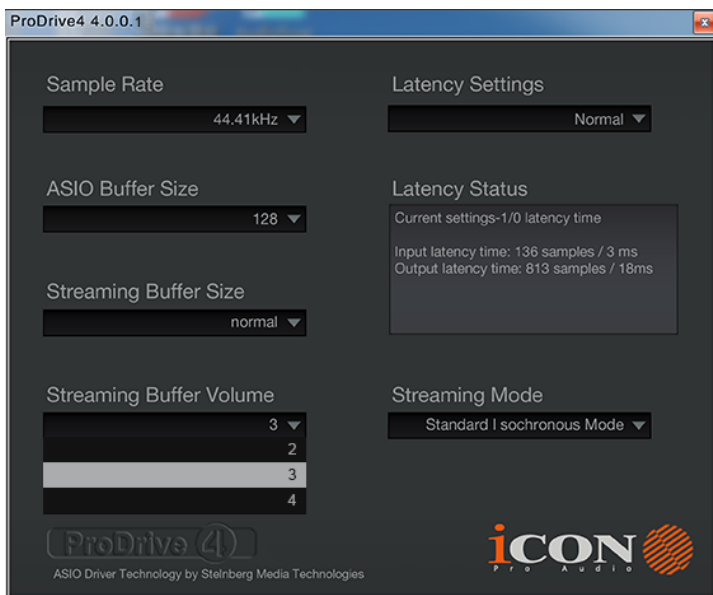


図 36

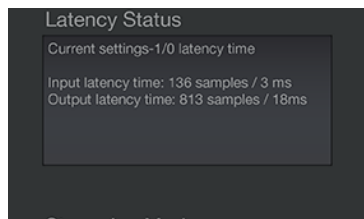


図 37

(**注意** : 「Latency Status」 ウィンドウに警告メッセージが表示されたら、大きな遅延の値を調整してください。)

(**注意** : クリック音が聞こえたら、さらに大きなバッファサイズに設定を変更してください。一番大きなバッファサイズを選択した場合でもクリック音が聞こえることがあります。これは、ご使用のコンピュータの性能が不十分なため、タスクを処理しきれないことを意味します。(これは、UPorts4 Dyna シリーズ デジタルオーディオインターフェースから発生する音ではありません。)

ProDriver ホスティングラック (Mac/Windows)

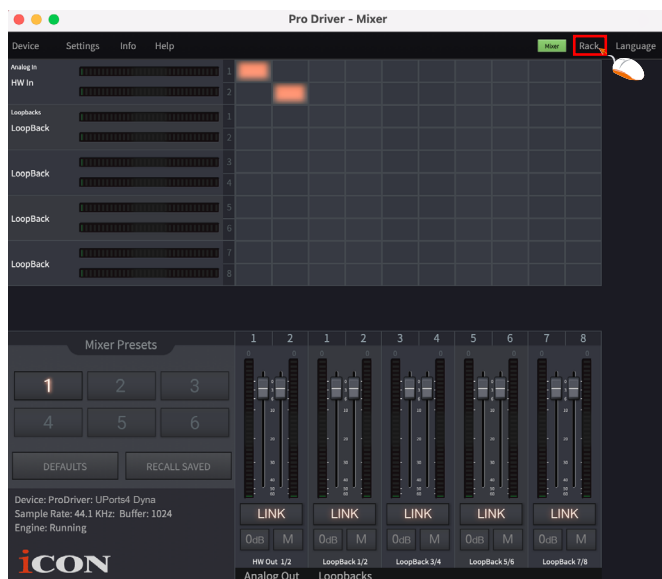


図 38

ProDriver Rackを使用すると、DAWで任意のプラグインを使用できます。または、DAWを実行せずに、デバイスをスタンドアロンのプラグインエフェクターとして使用することもできます。

ProDriverのミキサーパネルの[Rack] ボタンをクリックして、[Virtual Rack] ウィンドウを起動します

セッションとプリセット

セッションには無制限のプリセットを含めることができます。それぞれのプリセットには、さまざまなプラグインを挿入することができ、目的の効果音やアプリケーションのニーズを満たすことができます。

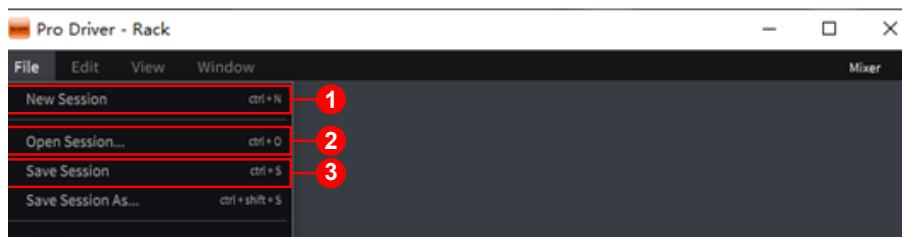


図 39

1、新しいセッションの作成

上部メニューバーの [file] タブの下にある [New Session] をクリックします。次に、「Save Session」をクリックして、ファイル名を入力します。

2、保存したセッションを開く

上部メニューバーの [File] タブにある [Open Session] をクリックし、保存したセッションファイルを選択してセッションを開きます。

3、セッションを保存

セッションに変更を加える場合は、上部メニューバーの [File] タブにある [Save Session] 機能をクリックして、セッションを保存できます。または、新しいセッションとして保存する場合は、[Save Session As] 機能をクリックして、新しいセッション名を入力します。

新しいプリセットを作成

上部メニューバーの「編集」タブの下にある「新しいプリセット」機能をクリックします。新しいプリセットスロットが作成されます。

ヒント: プリセットの名前を変更するには、選択したプリセットスロットの「Aa」ボタンをクリックします。

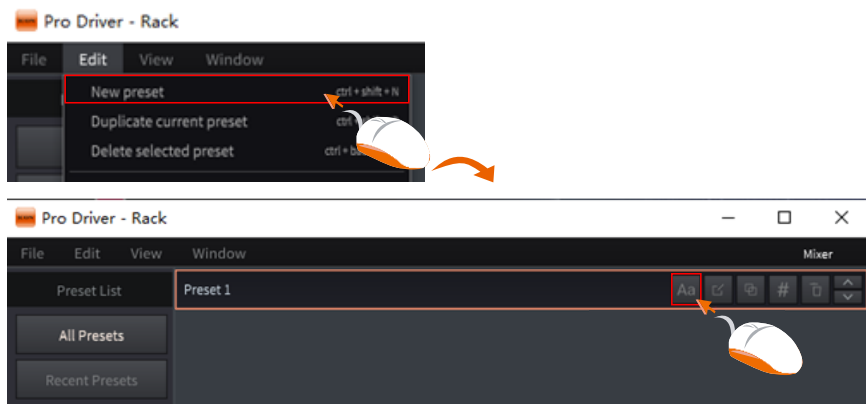


図 40

現在のプリセットを複製

現在のプリセットに小さな変更を加えて、2つを比較したい場合があります。

「Duplicate Current Preset」機能を使用すると、現在のプリセットを即座にコピーできます。次に、プリセットの1つを使用して必要に応じて変更を加え、2つを比較できます。上部メニューバーの「Edit」タブにある「Duplicate Current Preset」機能をクリックします。

ヒント：選択したプリセットスロットの右側にある3番目のボタンをクリックすると、選択したプリセットを複製できます。

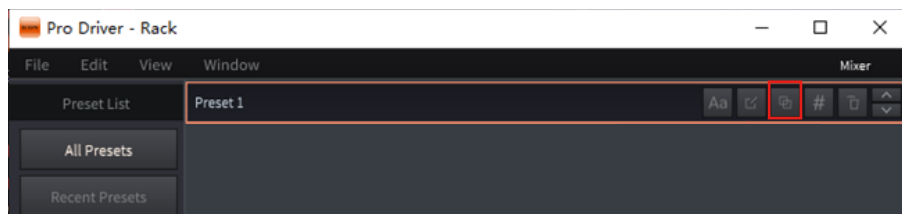


図 41

プリセットを削除

プリセットは削除できます。プリセットを選択し、上部メニューバーの [Edit] タブにある「Delete selected preset」をクリックします。

ヒント：選択したプリセットスロットの「Trash」ボタンをクリックして、選択したプリセットを削除することもできます。

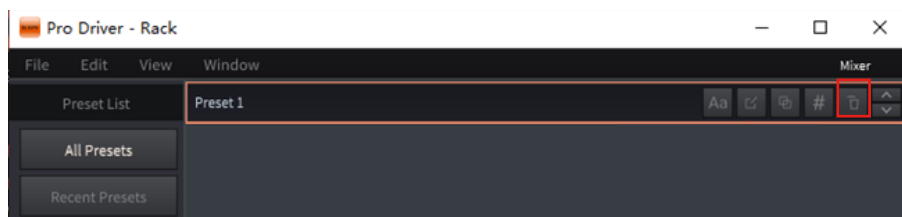


図 42

プリセットのグループ化

「Vocal」、「Special」、「MC」、「Others」の4つの「プリセットカテゴリ」があり、現在のすべてのプリセットをグループ化できます。これは、歌（ボーカル）、放送（MC）、ギター（スペシャル）など、さまざまなアプリケーションに応じてさまざまなプリセットを管理するのに非常に便利です。選択したプリセットを特定のカテゴリに設定するには、選択した「#」ボタンをクリック、スロットをプリセット、そしてプルダウンメニューからカテゴリをクリックします。

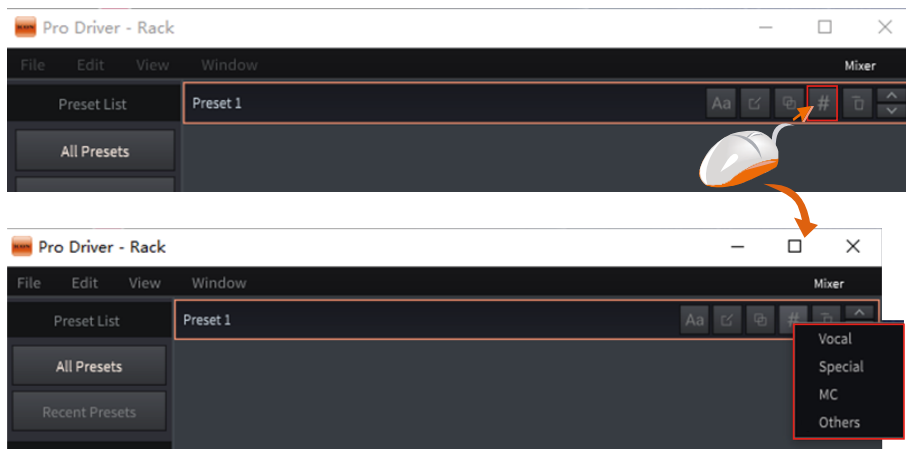


図 43

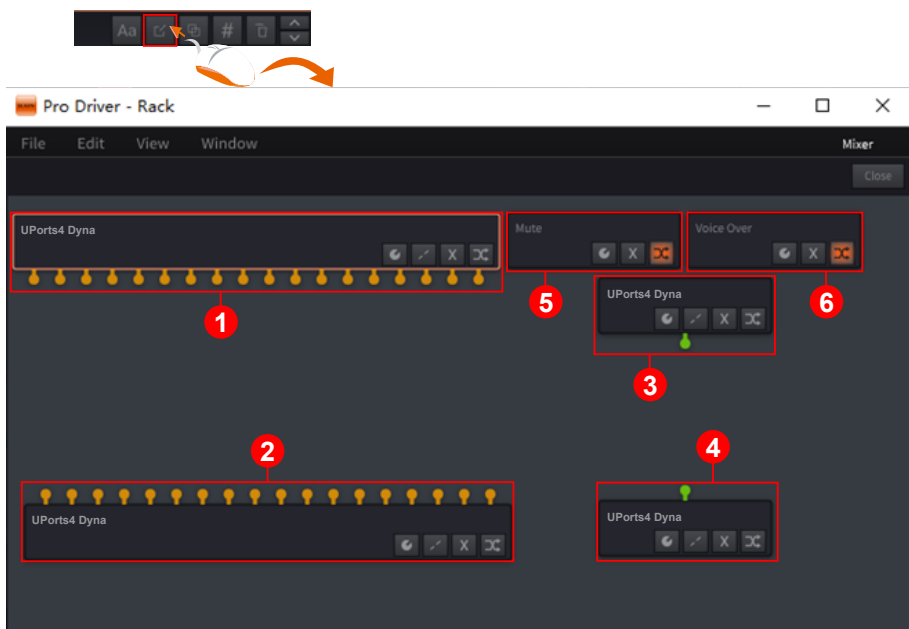


図 44

プリセットでプラグインを編集

選択したプリセットスロットの [Pencil & Paper] ボタンをクリックすると、プラグインラック画面に入り、6つの異なるルーティングブロックが表示されます。

1. オレンジ色の接続を搭載した ProDriver 入力ルーティングブロック

オーディオインターフェースに搭載されている I/O の数に応じて、オレンジ色の接続が多数表示されます。これらはオーディオインターフェースの入力チャンネルを表しています。

2. オレンジ色の接続を搭載した ProDriver 出力ルーティングブロック

オーディオインターフェースに搭載されている I/O の数に応じて、オレンジ色の接続が多数表示されます。これらはオーディオインターフェースの出力チャンネルを表しています。

3. ProDriver MIDI 入力ルーティングブロック（緑の接続部）

オーディオインターフェースに MIDI I/O が装備されているかどうかによって、緑色の接続が表示されますが、これはオーディオインターフェースの MIDI 入力チャンネルを表しています。

4. ProDriver MIDI 出力ルーティングブロック（緑の接続部）

オーディオインターフェースに MIDI I/O が装備されているかどうかによって、緑色の接続が表示されますが、これはオーディオインターフェースの MIDI 出力チャンネルを表しています。

5. ルーティングブロックをミュート

これは、ミュート機能の使用を目的としたルーティングブロックです。ブロックを右クリックすると、使用可能なすべてのプラグインのプラグインプルダウンメニューが表示されます。目的のプラグインをクリックして選択します。ロックを「ミュート」機能として使用するには、通常、コンプレッサープラグインを追加する必要があります。ProDriver フローティングアイコンに小さな有効化ショートカットボタンを作成しました。「M」ボタンをクリックするだけで、機能（プラグイン）を有効または無効にできます。

ヒント：ミュート機能以外にも、対応するプラグインを挿入することで、ご希望の機能に使用することができます。



図 45

6. ボイスオーバールーティングブロック

これは、ボイスオーバー機能の使用を目的としたルーティングブロックです。ブロックを右クリックすると、使用可能なすべてのプラグインのプラグインプルダウンメニューが表示されます。目的のプラグインをクリックして選択します。ロックを「ボイスオーバー」機能として使用するには、通常、コンプレッサープラグインを追加する必要があります。ProDriver フローティングアイコンに小さな有効化ショートカットボタンを作成しました。「V」ボタンをクリックするだけで、機能（プラグイン）が有効または無効になります。

ヒント：ボイスオーバー機能として使用する以外にも、対応するプラグインを入れることで、ご希望の機能に使用することができます。

利用可能なすべてのプラグインをインポート

上部メニューバーの「View」タブをクリックし、「Plugin Manager」をクリックして「Plugin Manager」ウィンドウを起動します。「Scan AudioUnit」、「Scan VST」、「Scan VST3」のいずれかをクリックすると、お使いのパソコンにあるすべての対応プラグインが自動的にスキャンされます。利用可能なすべてのプラグインのリストが表示され、それらは自動的にインポートされ、ProDriverで使用できるようになります。

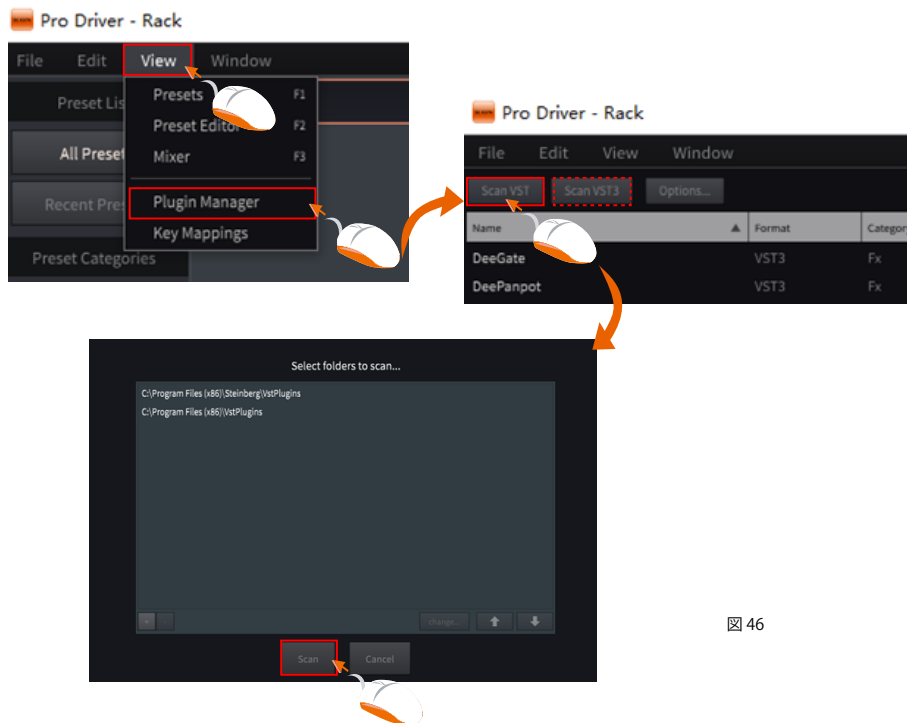


図 46

プラグインの追加とルーティングの作成

プラグインを追加し、入力チャンネル間のルーティングを行い、プラグインを出力チャンネルに追加することは非常に簡単にできます。接続ケーブルを接続ポイント間を引っ張りドラッグするだけです。プラグインを追加するには、マウスを右クリックすると、お使いのコンピューターにあるすべてのプラグインがプルダウンメニューに表示されますので、プラグインをクリックして選択してください。

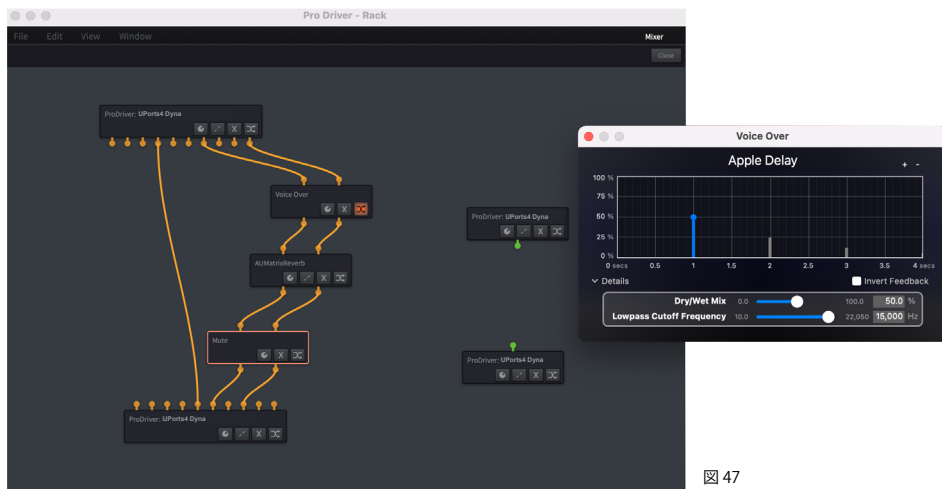


図 47

ボタン

- 1、クリックすると、実際にプラグインのコントロールパネルが起動し、設定を行うことができます。
- 2、クリックすると、そのブロックに接続しているすべての仮想接続を削除します。
- 3、クリックするとルーティング / プラグインブロックを削除します
- 4、クリックすると、ルーティング / プラグインブロックを有効または無効にします



図 48

ハードウェアの接続

UPorts4 Dyna デジタルオーディオインターフェースの出力を、ご使用のアンプやパワードモニターやサラウンドシステムに接続してください。2チャンネルステレオ動作です。デフォルト出力はチャンネル1と2です。

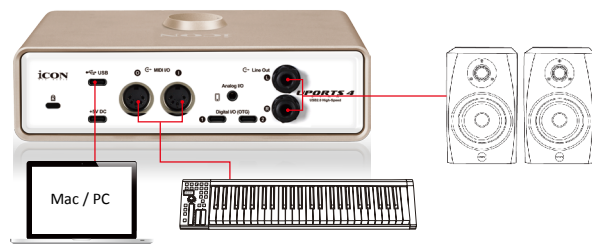
ヘッドホンでモニタする場合、デバイスのヘッドホン出力にヘッドホンを接続してください。

デバイスのアナログ入力には、マイクや楽器、またはその他のラインレベルアナログソースを接続してください。

MIDI I/O に MIDI デバイスをそれぞれ接続してください。



PC/MAC Only



Smart Device Only



PC/MAC Smart Device Simultaneously



各種マイクロホン接続図



注意: ダイナミック・マイクロホンをお使いになる場合には、マイクロホンが破損することがあるので、接続前に必ず +48V ファンタム電源スイッチを「オフ」にしてください。

仕様

ADC:

Dynamic Range: 122dB, A-weighted
Signal-to-Noise Ratio: -122dB, A-weighted
THD+N Ratio: -116dB, -1dBFS

DAC:

Dynamic Range: 127dB, A-weighted
Signal-to-Noise Ratio: -127dB, A-weighted
THD+N Ratio: -120dB, 0dBFS

Mic1/2 Inputs (XLR, Balanced):

Frequency Response: 20Hz to 20kHz (+/-0.1dB)
Noise EIN: <-120dB
Input Impedance: 1.8K Ohms
Gain Range: -6dB~+46dB
Maximum Input Level: +9dBu

Instrument1/2 Inputs (6.35mmTRS, Unbalanced):

Frequency Response: 20Hz to 20kHz (+/-0.1dB)
Input Impedance: 390K Ohms, typical
Gain Range: +0dB~+39dB
Maximum Input Level: +9dBu

Line Outputs 1/2 (Stereo, Unbalanced):

Frequency Response: 20Hz to 20kHz (+/-0.1dB)
Nominal Output Level: +4dBu, typical
Maximum Output Level: +10dBu
Output Impedance: 150 Ohms
Load Impedance: 600 Ohm minimum

Headphone Outputs: (Stereo, Unbalanced):

Frequency Response: 20Hz to 20kHz (+/-1dB)
Maximum Output Level: +9dBu, typical
Output Impedance: 10 Ohms
Load Impedance: 32 to 600 Ohms

修理について

本製品の修理が必要な場合は、以下の手順に従ってください。

以下のような情報、知識、ダウンロードについては、当社のオンラインヘルプセンター (<http://support.iconproaudio.com/hc/en-us>) でご確認ください

1. FAQ (よくあるご質問)

2. ダウンロード

3. 詳細情報

4. フォーラム

必要な情報のほとんどが、こちらのページに記載されています。お探しの情報が見つからない場合は、下のリンクからオンライン ACS (自動カスタマーサポート) でサポートチケットを作成してください。当社のテクニカルサポートチームがお手伝いいたします。

<http://support.iconproaudio.com/hc/en-us> にアクセスしてサインインし、チケットをお送りください。ただし、「Submit a ticket」をクリックするとサインインの必要はありません。

照会チケットをお送いただくと、弊社サポートチームが、ICON ProAudio デバイスの問題をでき限り早く解決できるようにお手伝いいたします。

不良品を修理・交換のために返送する場合：

1. 問題の原因が誤操作や外部システムデバイスではないことを確認してください。
2. 弊社にて修理の際、本書は不要ですので、お手元に保管してください。
3. 同梱の印刷物等や箱など、購入時の梱包材で本製品を梱包してください。梱包材がない場合は、必ず適切な梱包材で梱包してください。工場出荷時の梱包材以外の梱包材が原因で発生した損害について、弊社では責任を負いかねます。
4. 弊社サービスサポートセンターまたは地区内の正規サービスセンターに本製品を送付してください。下のリンクから、当社のサービスセンターおよび販売店の所在地をご覧ください：

香港にお住まいの場合は、
製品をこちらまで返送してください：
ICON (Asia) Corp:
Unit F, 15/F., Fu Cheung Centre,
No. 5-7 Wong Chuk Yueng Street, Fotan,
Sha Tin, N.T., Hong Kong.

北米にお住まいの場合は、
製品をこちらまで返送してください：
ICON Service Centre
611 Potomac PL Ste 102
Smyrna, 37167-5655 Tennessee.
United States
Tel.: +1 615 540 989

ヨーロッパにお住まいの場合は、
製品をこちらまで返送してください：
Sound Service
GmbH European
Headquarter Moriz-Seeler-Straße
3D-12489 Berlin
Telephone: +49 (0)30 707 130-0
Fax: +49 (0)30 707 130-189
E-Mail: info@sound-service.eu

5. その他更新情報は、弊社ウェブサイト (www.iconproaudio.com) をご覧ください。



天猫官方旗舰店



天猫店艾肯旗舰店

抖音号



抖音iCON艾肯

哔哩哔哩



B站iCONProAudio

中国地区用户

微信公众号



微信号iCON-PRO

官方售后QQ



4006311312.114.qq.com

Twitter



www.twitter.com/iconproaudio

Instagram



www.instagram.com/iconproaudio

Facebook



www.facebook.com/iconproaudio

Youtube



www.youtube.com/iconproaudio

Website



www.iconproaudio.com

Support



support.iconproaudio.com

Dashboard



iconproaudio.com/dashboard/

www.iconproaudio.com